

4 教会による、 教会のための大学

東京神学大学で学ぶ神学生が必要とする経費(年間約300万円/1人)のうち、およそ半分は全国各地にある諸教会からの献金で支えられています。本学の特質を良く理解する諸教会が、全国各地に後援会を組織して、祈りと献金によって本学を背後から支えてくださっています。神学生は、そのような諸教会からの推薦を受けて入学し、学びを終え卒業したとき、ほとんどはこれらの諸教会に派遣されます。東京神学大学は、本当の意味で「教会による、教会のための大学」だと言えるでしょう。

5 世界に開かれた 神学教育機関

東京神学大学は、世界の諸教会、神学教育機関とも密接なネットワークをもつ神学校です。教員の中には海外の教会から派遣された宣教師もおり、留学生も多数学んでいます。留学生の割合は、全学生数の約10%で、主に韓国と中国の出身者です。さらに学内にアジア伝道研究所を持ち、アジアにおける伝道の課題を担うためのセミナーや研修旅行なども実施しています。

6 教育職員免許状(宗教)を 取得可能

日本のプロテスタントのキリスト教学校において伝道者として働く教師を養成することも、本学の大切な使命の一つです。そのため、通常の神学教育のプログラムと並んで、中学校、高等学校における「宗教科(聖書科)」教員を育成するための教職課程があります。今日までに数多くの聖書科教員、宗教主任を輩出し、日本のキリスト教教育に貢献しています。



牧師という つとめについて

教授 関川 泰寛 (歴史神学)

プロテスタント教会では、すべてのキリスト者は、神さまに仕え、神さまに身をささげ、友のために執り成しを祈る祭司であると考えています。宗教改革者は、そのようなキリスト者のありかたを「全信徒祭司性」(万人祭司)と呼びました。

同時にプロテスタント教会は、召命を受け、神と教会に仕える特別なつとめを行う人々を、キリスト者の中から牧師としてたててきました。主イエスが羊飼いのように羊を養ってくださったのと同じく、教会という群れを養い、説教を行い、聖礼典を執行します。人々に罪の赦しの福音の内容を教え、キリストの生命にあずかって生きる人々の群れの形成に、大きな、しかも喜ばしい責任を負います。

